

# 労働図書館新着情報

## 今月の図書紹介

<p>①川島正樹著『アファーマティヴ・アクションの行方』名古屋大学出版会(v+198+34頁, A5判)</p> <p>「人種」問題を抱え続ける米国が、積極的差別是正措置(アファーマティヴ・アクション、AA)によってその克服に努めてきた歴史的な歩みを、できる限り平易に説明するのが本書の目的。筆者は、半世紀近くの厳格な法による差別禁止と、40年にわたる「優遇措置」の実施を経たにもかかわらず、依然として賃金や学歴などに人種間格差があることを「自己責任」の結果と片付けてよいのか、と主張。州レベルでAAを廃止する動きが拡大しつつあるが、人種間の格差は正のためには、廃止ではなく、改善すべきだと訴える。公正さを追求してきた米国史におけるAAの歴史的経緯と背景を確認し、未来社会を模索する現代アメリカの努力の下でのAAの行方を展望する。</p>	<p>③佐藤博樹他著『介護離職から社員を守る』労働調査会(193頁, 四六判)</p> <p>社員の仕事と介護の両立支援について、企業の関心が高まりつつある。仕事と介護の両立に不安を感じている社員が多いことが背景にある。著者は、「育児と仕事の両立」と同様の支援で「介護と仕事の両立」問題が解決すると誤解しているケースもあると指摘。社員が仕事と介護の両立に困難を感じると、仕事への意欲を失い、最悪の場合は優秀な人材の流出もあり得る。本書は、社員の仕事と介護の両立支援に企業として取り組むことの必要性、支援の基本的な考え方、情報提供などの両立支援の方法を、データや事例に基づいて紹介。柔軟な働き方の実現に加え、介護支援制度などの利用、役割分担や評価のあり方などの人材マネジメントにより、介護離職防止策を提案する。</p>
<p>②古川久敬著『壁と溝を越えるコミュニケーション』ナカニシヤ出版(vi+208頁, 四六判)</p> <p>従来前提や発想が通用せず、多くの組織で、創造性と革新性が推奨され、創造的アイデアが盛り込まれた企画案が誕生している。しかし、その企画案を実現すべく動き始めたとき、上司や部下、他部門など関係者の理解、協力が得られず、事態は暗礁に。管理者やリーダーが出合う、こうした組織の元凶が「壁」であり「溝」であると指摘する。本書では、組織内の壁や溝を乗り越えるために必要なコミュニケーションの効果的な方略を紹介。関係者といわずらに対峙するのではなく、「共に見るもの」を用意することの意義と効果について解くとともに、個人内部の壁の越え方としての役割の再定義、共に見ることで役割再定義の貴重な機会である目標設定面談の重要性を説く。</p>	<p>④石田淳著『相対的剥奪の社会学』東京大学出版会(v+210頁, A5判)</p> <p>他人と自分の境遇を比較したときに感じる欠乏感や不満を表わす「相対的剥奪」は、社会学的概念・理論であるが、体系的な理論的枠組みは得られていない。本書は、経済的不平等指数との関連から相対的剥奪をモデル化・指数化したシュロモ・イツハキの研究を応用し、ミクロ(個人)とマクロ(集団)、主観と客観の両面、そして数理モデルを用いた理論と経験的データの分析による計量の両面から、「相対的剥奪の社会学」を展開することを目指している。機会不平等と相対的剥奪の関連を、理論と実証の両面から解明することが目的である。相対的剥奪指数の導入、相対的剥奪の歴史社会学、相対的剥奪の計量社会学の3部で構成。科学研究費補助金研究の成果の一部である。</p>

(日本十進分類[NDC]順に掲載)

## 主な受け入れ図書

(2015年2—3月労働図書館受け入れ)

⑤大村敦志著『家族と法』左右社(205頁, 四六判)	⑮中野雅至著『ニッポンの規制と雇用』光文社(267頁, 新書判)
⑥近畿弁護士会連合会編『生活保護と扶養義務』民事法研究会(x+133頁, A5判)	⑯AERA編集部編『ぼくらは働く、未来をつくる。』朝日新聞出版(195頁, 四六判)
⑦トマ・ピケティ著『21世紀の資本』みすず書房(xv+608+98頁, A5判)	⑰加藤容子他著『わたしのキャリア・デザイン』ナカニシヤ出版(ix+200頁, A5判)
⑧野田稔著『当たり前経営』ダイヤモンド社(224頁, A5判)	⑱宝島社著『日本人の給料大辞典』宝島社(143頁, A4判)
⑨花崎正晴著『コーポレート・ガバナンス』岩波書店(xi+180+4頁, 新書判)	⑲二宮誠著『労働組合のレシピ』メディア・ミル(249頁, 四六判)
⑩野地秋嘉著『アジアで働く いまはその時だ』日経BP社(247頁, 四六判)	⑳林美佐子著『顔をあげて。そばにおいで。』メタモル出版(159頁, 四六判)
⑪下井隆史他編『企業のための労働契約の法律相談』青林書院(xxiv+707頁, A5判)	㉑松下美希著『生活“過”保護クライシス』文芸社(114頁, 四六判)
⑫岡崎隆彦著『労働判例に学ぶ予防的労務管理』産労総合研究所出版部経営書院(409頁, A5判)	㉒清水隆彦著『キャリア教育で変える学校経営論』実業の日本社(170頁, A4判)
⑬岩崎仁著『よくわかる「多様な正社員制度」と就業規則見直しのポイント』日本法令(339頁, A5判)	㉓藤田晃之著『キャリア教育基礎論』実業の日本社(299頁, A5判)
⑭川村遠平他著『ブラック企業と奨学金問題』ゆいぽおと(111頁, A5判)	㉔川村雅則他著『ブラック企業に負けない!』きょういくネット(174頁, B5判)
⑮朝日新聞「働く人の法律相談」弁護士チーム著「会社で起きている事7割は法律違反」朝日新聞出版(259頁, 新書判)	㉕小島京美著『キャリア教育で「人間力」が伸びる』東方通信社(208頁, 四六判)
⑯萬井隆令著『人間らしく働き生きる』学習の友社(167頁, A5判)	㉖難波功士著『「就活」の社会学』祥伝社(396頁, 新書判)
⑰山田省三他著『よくわかる! 労働判例ポイント解説集』労働開発研究会(143頁, B5判)	㉗藤田昭夫他著『日本鉄鋼業の光と影』勁草書房(vii+232頁, A5判)

### 労働図書館(資料センター)

当図書館は、社会科学関係書を中心に和書115,000冊、洋書30,000冊、和洋の製本雑誌25,000冊を所蔵している日本有数の労働関係の専門図書館です。

労働関係の分野には、労働法、労働経済、労働運動、雇用職業、女性労働、パート派遣、高齢者労働、障害者労働、外国人労働、社会福祉などがあり、これらで、蔵書の半数以上を占めています。このほかにも、経済書をはじめ経営学、心理学、教育学、社会学など関係分野に及んでいます。また、和雑誌(285種)、洋雑誌(120種)、紀要(510種)、組合機関誌・紙を受け入れています。

特色としては、厚生労働省をはじめとする官公庁発行の統計類などの逐次刊行物、経団連など経営者団体の刊行物や民間研究機関刊行物、社史があり、労働組合に関しては、労働運動史、ナショナルセンターや産業別組合の大会資料などを継続的に収集しています。洋書については、特にILO(国際労働機関)総会の議事録やOECD(経済協力開発機構)の刊行物、各国政府の労働統計書などを収集して閲覧に供しています。特殊コレクションとしては、戦前・戦後を通して歴史的に貴重な労働組合の原資料を収集、提供しています。

所在地: 〒177-8502 東京都練馬区上石神井 4-8-23

開館時間: 9:30 ~ 17:00

休館日: 土曜日、日曜日、国民の祝日、年末年始(12月28日~1月4日)、その他

電話番号: 03(5991)5032 / FAX: 03(5991)5659

労働図書館 HP: <http://www.jil.go.jp/lib/index.htm>

利用資格: どなたでもご自由にご利用できます

貸出: 和書・洋書とも2週間、5冊までです

※身分証明書(運転免許証、健康保険証など)をお持ちください

レファレンス・サービス: 図書資料の所在調査などのサービスを行っています

